

(仮称) デザイン会議の取組状況について

令和 6 年度より開始した(仮称)デザイン会議の取組状況について、以下の通り報告します。

1 (仮称) デザイン会議の趣旨

まちへの影響が大きい都市計画道路事業・計画を契機として、学習、対話、実践を通じて区民が主体的にまちづくりに取り組むことを目指す。

2 令和 6 年度の開催状況(参加者からの意見については、別添資料参照)

地域	開催日	主なテーマ	参加者
西荻窪	R6. 9. 8	・残したい、伸ばしたい良いところ ・解決したい課題	65 名
	R6. 12. 1	・テーマ別グループ討議 「課題解決の方向性を考える」	49 名
	R7. 2. 16	・課題解決策のアイデア ・来年度、取り組みたいこと	56 名
高円寺	R6. 9. 29	・残したい、伸ばしたい良いところ ・解決したい課題	23 名
	R6. 12. 14	・テーマ別グループ討議 「優先的に解決する課題・取組内容を考える」	24 名
	R7. 3. 2	・課題解決策のアイデア ・来年度、取り組みたいこと	24 名
南阿佐ヶ谷	R6. 10. 27	・まちづくりへ期待すること ・不安や、疑問に思っていること	54 名

※運営スタッフ：西荻窪 27 名、高円寺 12 名、南阿佐ヶ谷 19 名

3 今後の予定

各地域において、(仮称)デザイン会議やテーマ部会等を合わせて 3 回程度開催し、参加者の意見も伺いながら、以下の内容に取り組むこととしたい。

- ・参加者の疑問に答え、道路事業への理解を深めるための情報提供
- ・有識者によるまちづくりの事例等に関する講演会
- ・テーマ部会の発足と参加者による情報発信

参加者からの意見（抜粋）

	西荻窪	高円寺	南阿佐ヶ谷
対話について	・多角的な側面からの議論ができて良かった ・デザイン会議の場があったから同じテーブルを囲み、意見を伺うことができた	・自分よりも長く住む年長者から土地の歴史や知識を得られたこと（が良かった）。同じ町に住む人たちと自分たちの街について話し合うことは意外と楽しかった。 ・皆さんの多様な意見が聞けた ・各世代の直面する課題を話すきっかけが十分にとれていた ・出席者の年齢層に偏りがあり、特に若年層がいないことには対応が必要	・普段接することの少ない属性の方々と意見交換ができて学びになりました ・世代間で、考える内容の差はありながらも、こうした素直な話し合いの場があること自体が面白く、参加して良かった
道路事業への疑問、勉強会の必要性	・都市計画道路拡幅の経緯、メリット、デメリット、代案などを説明できる専門家を加えた、話し合いの場としての学習会を開き、区が大切にしている対話を進めていくことの重要性を感じています。見直し、推進双方の意見をまず聞きあえる学習会を、必ず開くよう希望します。	・区が道路計画の推進にどのような具体的アプローチをしているのか説明がほしい ・道路の必要性、目的、整備効果、費用、事業期間など必要な論点を整理して、そのエビデンスが相互理解でき得るものかをチェックすることは欠かせない	・杉並区について知らないことが多く、道路整備の内容についてはよく分からなかった ・都市計画道路補助 133 号線自体は、練馬から世田谷まで繋がる道路のため、他の自治体での進捗や沿道まちづくりがどうなっているかも、勉強会の機会があった方がよいのではないか
今後の具体的活動の必要性、期待	・諸問題の正しい情報を共有するところを丁寧に行い、部会やイベントなど具体的活動を行っていききたい ・「街」づくりの観点から言うと、もしかしたら西荻はこのままでもよいのかもしれませんが、地域の人々が混ざり刺激し合う場や、きっかけづくりとして、街づくりという活動があることも良い	・具体的活動を行うことを決めないと、会議ばかりしていることになる	・道路と、その沿線の商業施設、更にその奥の住宅地を総合的に考え、人が集い、ふれあい、楽しめる場所を作り上げて欲しい

※西荻窪（第3回）、高円寺（第3回）、南阿佐ヶ谷（第1回）会議の「ふりかえりシート」で頂いた意見より抜粋し、整理した